

■ めざすまちの姿マトリクス（分野×理念）案

	安心	快適	健やか	つながり	誠実	元気	挑戦
	心配や不安がなく、明るく暮らせるまち	きれいで、心地よく、誰もが住みやすいまち	子どもからお年寄りまで、のびのびと心身ともに健康に暮らせるまち	地域の中でお互いが支えあい、助け合えるまち	健全で透明性が高い行政運営で、市民に開かれたまち	誰もがいきいきと明るく、活気にあふれているまち	誰もが生きがいを持ち、夢や目標に向かって踏み出せるまち
健康福祉	子どもへの虐待がない		子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている	支援が必要な人が身近に寄り合える場所があり、孤立していない		子どもの数が増えている	高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている
			多様な主体者が連携し、将来を見据えた医療や福祉の戦略が立てられ、実行されている	支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困っていない			
			元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢をもつことができている				
地域・市民生活	まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない	人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである		子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		子どもが元気に外で遊んでいる	若い世代が地域で活動し、地域に活気がある
				災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている			若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている
				防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の連携ができており、災害時には助け合うことができている			
教育・歴史文化	いじめや自殺、引きこもりがない		教育や子どもに関する予算が確保され、子どもの教育環境がよい		すべての子どもが等しく教育を受けることができる	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている	子どもの頃から職業体験や働く人の話を聞くことで、将来の夢を持つことができている
	子どもが良いことと悪いことの区別ができる		子どもが、ずっと育ってきた豊明を大好きでいる				
都市基盤・産業		道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる				豊明市が「通過するまち」から、「足を運んでくれるまち」になっている	若い人たちが地元で働ける
		交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している				市内に遊ぶ場所や働く場所があり、いろんな人が市内に入ってきて、豊明市が潤っている	
		空気がきれいである					
		日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティとなっている					
行政経営					行政は積極的に市民からの意見を吸い上げる工夫や努力をしている	豊明市に、市外の友達などに紹介できるような魅力がある	市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている
					世代、性別などで不公平感のない行政経営がなされている		
					税金が確保され、持続可能な未来あるまちとなっている		
					市職員が市民のほうを見て仕事をして、顧客サービス向上の意識が高まっている		